

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101402		
法人名	医療法人室原会		
事業所名	グループホームきくなん		
所在地	熊本市北区鶴羽田3丁目11番15号		
自己評価作成日	平成30年8月1日	評価結果市町村報告日	平成30年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念、メッセージ「私たちは家族です」に基づき、その人らしさを大切に、居心地の良い場を提供すべくケアを行っています。ご家族様とも常に連絡をとり、安心を提供出来るよう関係者に努めています。体調面は施設長指揮の下、隣接の連携病院で早急に対応出来るよう体制を整えており、栄養面でも連携病院の管理栄養士により管理された食事を、その人個々に応じた内容で提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「私達は家族です」を大切にする様子が職員一人ひとりに浸透し、また実践されていることが窺える。開設5年を迎えたホームは、要望や希望に真摯に取り組んでいる事が運営推進会等の議事録から読み取ることが出来た。ホームで要望等を改善しているが、それが家族等に伝わっていないことも有るため是非何かの情報提供を今後期待したい。また今年、看取りを経験したことで、職員それぞれが「介護職として何が出来るか」を改めて考える機会となった様子が聞かれた。訪問時の利用者の様子は穏やかで、日々の様子を収めた写真には笑顔があふれていた。高齢化が進む中、利用者それぞれへのケアは個別化され、個々への対応が必要になってきているが、職員のケアの配慮・技術により、安心・安全で穏やかな生活ができてることが窺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の玄関や事務所に掲示し職員の名札へも入れることで、常に理念を確認し実践している。また運営推進会議の場でも地域の方とも共有出来ている。	理念は職員入職時に必ず伝え、日頃の業務に取組んでいる。日常のケアで悩んだ時、迷った時には理念に立ち戻ることを基本としており、運営推進会議や研修を利用し、職員だけでなく地域や家族へも繰り返し伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域清掃への参加や消防訓練等を通して地域の一員として交流している。また顔の見える交流の場として、校区交流会へも参加し地域の現状把握へも努めている	近隣住民も高齢化が見られる中、避難訓練や運営推進会議の参加者、地域ボランティアの方々等、継続した交流が継続している。利用者の地域清掃活動も恒例化している。	近隣保育所との交流等、多様な交流に努める様子が窺えました。高齢化も進み外出も難しい状況ですが、行事だけでなく、日常的な触れ合いの機会にも期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポートリーダーの実習受入も出来るようにしている。また運営推進会議へ利用者様が一緒に参加することで認知症への理解をもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域、関連業種が参加しスライドでの活動内容や事業所の現状を報告することで意見交換や助言を取り入れサービス向上に努めている。	年6回の会議では行政・地域・家族とともに利用者も参加し、日頃の様子をスライドで活動報告するとともに、交流の場ともされている。事業所からは、利用者・家族から出た意見や課題に対する対応も報告され、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターささえりおよび参加頂いたり、熊本市介護相談員も来所され意見交換を行うなど協力関係を築いている。	運営推進会議への参加、市の介護相談員来所等により協力関係を築いている。今年度からは他事業所との勉強会をより地域に密着して開催していることから、行政や地域包括支援センターともより密接な関係作りが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の会議や勉強会を通じて情報を共有することで理解を深め拘束のないケアに取り組んでいる	従来より身体拘束のないケアを行っているが、今年度は事業所で委員会を立ち上げ、指針をもとに会議・勉強会を行い、徹底している。運営推進会議を利用し、地域や家族にも具体例を用い事業所での取組みを伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で日常を振り返る機会を持ち虐待のないケアを周知徹底している。		

グループホームきくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会を持ち理解を深めている。また外部の研修会にも積極的に参加し、他職員へ共有する準備は出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、随時質問をもうけ、同意を得た上で契約書の締結や改定などを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や介護相談員面談など意見や要望を聞く機会を設け、改善点などがあれば運営やケアに生かし対応するように努めている。	運営推進会議や季節行事だけでなく、日常的な家族の面会も多く見られ、職員からの声掛け等により意見を出しやすい環境を整えている。利用者は介護相談員の面談もあり、得られた意見は改善に向け取組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、必要があれば随時カンファレンスを行い、早急に対応し業務改善に反映出来るよう努めている。	毎月職員会議を行い、事業所・職員間の意識共有を行い、また意見を出し合う機会とされている。事業所では職員間で方向性同じくすることを大切にしており、必要に応じ随時検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	等級制度を導入し、昇進や資格取得で昇給もある。ISOも取得し、各自のスキル向上や職場環境など整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加やスキル管理表をもとに、自分自身の得手不得手を自覚し、働きながらトレーニングしていくことに努めている。また外部より勉強会講師も招いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会やブロック会などに参加しネットワーク作りをしている。管理者同士の会議を北区地域で行っているが、今後は介護職員も交えた交流を行っていきたい。		

グループホームきくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホールや居室でゆっくり傾聴する等要望や思いを聞き、それを職員間で共有、カンファレンス等で話し合い統一することで、利用者様が安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とよく話し合うことで、不安や要望を聞き取り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様、ご家族の必要としている支援を見極め、都度見直し調整を行いながら希望に添えるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や掃除、ゴミ捨て等の役割を持って頂くことで、協力し合い暮らしを共にする良い関係を築くことが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の行事への参加や衣替え、必要物品の買い物、専門病院への受診等を相談しながら無理のない程度にお願いし共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思いを大切に、要望があれば暮らした地域までドライブや家族へも協力して頂き馴染みの美容室等へ外出出来るよう支援している。家族、親戚、友人の面会も歓迎し関係が途切れないようにしている。	年々利用者の気軽な外出が難しくなっていることもあり、来所による関係継続にも努めている。季節行事には家族の参加も多く、家族で過ごす様子が定着してきた。利用者によっては美容院や通院等、家族との外出も継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性や関係性を大切に席の配置に気をつけ孤立しないよう努めている。また大人しく自ら会話されない利用者様へは職員が声かけを行うことで、利用者様同士で関われるよう配慮している。		

グループホームきくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も他の利用者様と面会や見舞いへ行き、ご本人や家族と会話する機会を大切に相談や支援が出来るようにしている。また、退所後も読み聞かせをして下さるご家族があり、今も関係を継続出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに寄り添い、思いや要望を聞くように努め、ご家族や職員間でも共有している。困難な時は表情や言動によりご本人の気持ちをくみ取り、本人本位に検討出来ている。	職員は日頃から利用者への寄り添いを大切にし、思いや要望の把握を行っている。利用者だけでなく、家族へも声掛けにより要望を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係者から情報提供をもとに生活歴や環境、その人らしさを把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、その人らしさの過ごし方を理解し、生活や心身状態の変化があれば記録や申し送りノートにて職員間で共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いや要望を尋ね、ご本人の状態に合わせたケアを取り入れている。また受け持ち担当職員がアセスメントやケアカンファレンスを記入、課題とケアのあり方を職員間でも話し合い、介護計画に活かしている。	利用者の担当職員から挙げられたそれぞれの状況を取り上げ、毎月のケースカンファレンスで話し合いを持っている。課題やケアについての検討は、状況により計画見直しにも繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や特記事項、チェック表や申し送りノートにて日々の様子や気づき、心身状態等の情報を職員間で共有し、日々のケアや介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージや訪問歯科、皮膚科往診依頼等外部サービスへも柔軟に対応している。		

グループホームきくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域清掃参加、ボランティア等の支援者間の連携をはかる事で交流を深め利用者様が安全で暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び「家族の希望に沿ったかかりつけ医を受診出来るよう支援している	利用者・家族の意向によるかかりつけ医の受診を基本としているが、現状は法人の医療機関が殆どで、毎月職員の介助で通院している。その他医療機関の場合は、家族の介助協力、訪問医療等、希望により適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃より利用者様の体調の変化やいつもと違う行動等をしっかりと観察し異変があれば看護師や医師へ相談、早めの対応に心がけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際、利用者や家族の思いや意向を尊重し、医療機関と連携をとり情報交換や相談に努めている。また施設長が母体病院の医師であり、病院関係者とも常に連携がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り、終末期に関する方針を定めており、契約時に説明を行い同意を得ている。その場面に直面したら医師を中心にカンファレンスを行い、終末期に向けたチーム支援に取り組んでいる。	看取り・終末期については契約時及び必要時期に説明を行い同意を得ている。家族の希望により看取りを行った際には、事業所としてできることを家族へ確認・説明しながら訪問看護事業所等も利用し、関係機関と協力し合い取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成、AEDに関しては専門講師により、実技指導を受けて実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害時の対応マニュアルを作成し、非常時の手順熟知に努めている。訓練を定期的実施する際、隣人にも声かけを行っている。	火災・地震・水害についてのマニュアルが整備され、職員への周知も徹底している。定期的な訓練実施の際は地域ボランティアへも伝え、地域と協力のもとで行っている。	

グループホームきくなん

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重した対応が出来るよう、勉強会や研修に参加し笑顔で安心して暮らして頂けるよう努めている。	高齢者の権利擁護や接遇に関しては大きなことととらえ、特に権利擁護は職員研修でも年度初めにテーマとして取り上げている。職員には「私達は家族です」の理念が浸透しており、利用者の安心・安全な暮らしを支えている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のしたい事や行きたい所、興味のある事など会話の中から引き出せるよう心がけ、利用者様本人が自己決定出来るよう働きかけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの時間や空間を尊重し、各利用者様のその時の状況に配慮し、柔軟な対応を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしくお好みの洋服を選ばれている。定期的に訪問カットを利用したり、馴染みのパーマ屋へ行かれたり、お洒落を楽しまれている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人の病院から配食されている。セレクトメニューの日もあり、利用者様が食事を楽しんで頂けるよう配慮している。食器洗浄後の皿拭き等も一緒に行っている。時にはお好みのおやつ作りも意欲的に参加されている。	季節行事や誕生日にはノンアルコールではあるものの希望により飲料を提供したりと、利用者の喜ぶ様子も伺えました。日々の楽しみである食事の充実にも今後も期待しています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりバランスのとれた食事を提供出来ている。ご飯の量や食事形態等、その方に合わせて提供している。水分量もチェックし、入りにくい利用者様には工夫をし、個々に応じた支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促している。入歯は洗浄剤を利用、夜に入歯を外さない方には昼に洗浄剤を利用して頂くなど、その人に適した支援をしている。また、訪問歯科利用など要望に応じた支援に努めている。	

グループホームきくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の時間や排泄パターンを把握し声かけを行っている。夜間オムツ希望の利用者様でも日中はパンツへ変更し自立に向けた支援を行っている。	利用者それぞれのパターンはチェック表により把握しており、日中は声掛け等によりできるだけトイレでの排泄を支援している。夜間は状況・要望により紙おむつやパット等の利用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族の希望に応じてバナナや納豆など提供を行っている。運動も心がけ、排便管理にて必要時には腹部マッサージなど行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の思いを重視し無理に促すことはせず、拒否時には様子をみたり、順番を変更したり時間帯は臨機応変に支援している。	基本的に隔日の入浴を支援している。出来るだけ見守りとしているが、身体状況により個々に合わせた介助を行っている。当日の体調や意向により無理強いせず、臨機応変な対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々利用者様らしく意思を尊重し、ホールや居室でテレビ視聴したりと自由に過ごされている。夜は居室にて休まれ、不安があればホールでスタッフと会話することで安心されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルと毎日のチェックにて内容把握出来ている。利用者様に尋ねられた際には説明を行っている。症状の変化がある場合は医師や薬剤師に相談し対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様各々の趣味や得意とする事を引き出せるよう支援に努め、時には家族の協力を得ることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年間行事計画はもちろんだが、日常的にドライブ、買い物、ゴミ捨て、散歩、入居者の病院見舞いなど外出支援を心がけている。家族にも協力して頂いている。	季節のドライブ等事業所の行事計画も良く見られ、日々の生活ではゴミ出しや隣接病院への通院・買い物を兼ねた散歩等、外出の機会を持っている。利用者の意向や状況により外出できない日も、室内は日当たりも良く開放感もあるため、外気を感じることもできている。	

グループホームきくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望により、数名の方がお金を持参しておられ、欲しいものや日用品を購入され、満足して頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族依頼で日記をつけて頂いている方もおり、家族間でのつながりを深めることにつながっている。本人より希望があった場合は自由に電話でお話して頂けるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、	手作りカレンダーや壁新聞、頂いた季節のお花を飾り、窓を開け風を感じて頂いたり、心地よく過ごせる空間作りを心がけている。	共用部分には日頃の利用者の様子がや利用者の作品コーナーがあり、会話のきっかけ作りにも役立っている。車椅子利用もあることから床部分は片付け・清掃が行き届いており、手すり等、安全な移動のための配慮もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルでは自席を設けているが、その時々で利用者様同士で自由に過ごして頂けるよう努めており、ソファーや廊下ベンチでゆっくりくつろがれる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物を持参して頂いたり、家具や使い慣れた布団、小物など居室は自由に飾りつけて頂き、心地よく過ごせるよう空間作りに努めている。また室温など温度計で確認し、過ごしやすい環境作りに努めている。	好みの物、親しみのある家具等の持ち込みがある中、利用者個々の状況により安全に配慮した配置が行われている。個々の部屋にはチェック表を設置し、温度管理や担当による整頓等にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には花のイラストと名前を表示、トイレ内部やドアにも表示をし、不安なく出来るだけ自立した生活が送れるよう努めており、トイレの際には安全を確保し、補助具を設置したりコールを目の前に置いたり分るように努めている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームきくなん

作成日 平成30年9月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	高齢化も進み外出も難しい状況だが、行事だけでなく近隣との日常的な触れ合いの機会にも期待する	地域や近隣との関わりを定期的に持つ	1回/2カ月はボランティアの受入れ、1回/1ヶ月以上は近隣スーパー等利用者様と買い物へ出かけ、地域の方と関わりを持つ	1ヶ月
2	40	日常の楽しみである食事の充実にも今後期待する	今以上に外食や利用者様の好みの食事やおやつ等手作りし提供	1回/2カ月は外食もしくは利用者様要望の料理やおやつ作りを行う	1ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。